

出題分析			
試験時間	60分	配点	60点
		大問数	3題
分量 (昨年比較)	[減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>易しかった昨年とは異なり、(1)から難しい問題もあった。特に大問2は(2)のみ正答している受験生が多いただろう。出題範囲については図形と方程式、確率、整数分野からであった。昨年出題された整数分野は、引き続き今年も出題された。また、微積分は昨年に引き続き、今年も出題されなかった。例年通り、全問記述式である。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	図形と方程式(領域)	<p>不等式が表す領域についての問題である。</p> <p>(1) 絶対値を含む不等式であるため場合分けをする。境界線を表す直線の方程式などから、Dは正方形の周および内部であることがわかる。</p> <p>(2) $x - y = k$とおき、領域と最大・最小で考える。</p> <p>(3) (2)と同様である。図形$x - y = l$がx軸、y軸にそれぞれ対称であることに気付けるかがポイントである。</p>	やや難
2	場合の数と確率	<p>特殊な出目のさいころを複数回投げた場合についての問題である。</p> <p>(1) 対称性を用いれば解答しやすいが、$y = z$となる場合に注意が必要である。別解として、y, zが満たす条件を求め、yz平面に図示し、領域内の格子点の数を求める方法もある。</p> <p>(2) さいころをn回投げたとき、出た目の最大値が0となる場合に注意が必要である。</p> <p>(3) 投げる回数の上限が与えられていないため、それを利用して求める確率に関する方程式を立てる。</p>	やや難

設問別講評			
3	整数(1次不定方程式)	<p>整数の余りに関する条件を、1次不定方程式に帰着させる問題である。本セットの中では最も易しい問題であり、確実に得点しておきたい。</p> <p>(1) 整数解の1つを求めるのが難しい場合の対処法は知っておきたい。</p> <p>(2) 条件を満たす整数を、文字を用いて2通りに表し、等号で結ぶことで1次不定方程式を得る。不定方程式における2つの変数の係数が(1)とほぼ同じであることに注目し、(1)の結果を利用して考える。</p> <p>(3) (2)と不定方程式の係数が同じであることを利用する。</p>	やや易

合格のための学習法

年度によって、多少の難易度の差はあるが、まずは典型的な問題を確実にこなす力を身につけることが重要である。いろいろな問題を解いて、正しい解法や、スムーズに計算を行う力を身につけよう。また、どの分野から出題されても対応できるようにすることも大切である。苦手な分野がある者は、教科書などできちんと基礎事項を身につけること。

そして、この学部は全問記述式である。考えたことをまとめることや、模範解答を読んでどのように記述すればよいかを学ぶことを、日頃から行おう。